




Annual Report 2011 → 2012

<年次報告書・暫定公開版>

挑戦の伴走者に、熱意のつなぎ役に
 **NPO法人 G-net**



代表挨拶

01年10月に取り組みを始めたG-netの活動も本当に多くの方々の支え、応援を頂き、昨年10月には10周年を迎えることができました。長らく試行錯誤の続いた長期実践型インターン事業もようやく見通しが立ちつつあり、まさに10年を節目に次のフェイズに挑戦するタイミングを迎えていると感じています。

真に岐阜を、地域を変えていく存在になれるのか。
なくてはならぬ、と言って頂ける存在になれるのか。

インターン事業はこれまでの積み重ねに加え、社会的な実践教育に対する要請もあり国も推進方針を示し大きな追い風を今後受けることになるでしょう。また、取組へのご評価から三重県や愛知県のみでなく岡崎市からも実施の依頼を受けるに至っています。こうした中で、インターン事業は更なる質・量の向上と共に、どう他地域での取り組みに対しても支援可能な体制やサービスの準備が求められると考えています。加えて要望の多かった、夏休み・春休み期間内で完結する1か月集中型の「地域協働型インターン」プログラムも岐阜大学はじめ岐阜県内大学において単位化され、より多くの学生・企業・大学に参画を頂く見通しが立ちつつあります。

昨年まではインターン経験者の大学を卒業する学生数は年間2-30名程度でしたが、近年のインターン参加者の増加傾向を受け、2013年卒で50名強、14年卒は100名弱となる見込みです。そうした中で、インターンOBOGのネクストステップを支援し、地域の課題解決に主体的に取り組む若者を育成していくためにも、新たな取組が必要だと考えています。

地域企業と若者とのより踏み込んだつなぎ役として就職／採用支援事業への展開や、主体的に事業を立ち上げていく起業家的な取組への支援も進めていきます。加えて、白書といった形で地域や若者を取り巻く課題研究をすすめ、若者と地場産業、シゴト...といった分野での専門家としての地位を確立していきます。

3年後・5年後を見据えた中で、G-netは本当に地域を変えていく存在になれるのか、いま一度見つめ直し、地域課題から取組みを設計していきます。

G-netは、地域でチャレンジをする人々を応援し、つなぎ、そしてスポットライトを当てる演出家でありコメディネーターであれればと思っています。G-netに縁あるすべてのヒトが、この地域という舞台上、それぞれが主役になり、そして脚光を浴びる。そんなチャレンジを共に歩む存在であり、地域に点在する意欲や熱意ある方々をつなぎ、更なる仕掛けを生み出す存在でありたいと思っています。

舞台上に上がり、それぞれがそれぞれの出番と役割で輝くヒトが増えることこそが、本当の地域活性化であると確信しているからです。

10年間、長かったようでもあり一方本当にあつという間だったなあという感覚でもあります。振り返ってみると、様々なヒトやコトとの出会いを頂き、たくさんの方々に教えていただき、気づかせて頂いた日々の連続だったと感じます。

これまで、多くの方々にお世話になり、支えていただいたからこそ、ようやくここまで取り組みを重ねてくれたのだ、と感謝の気持ちでいっぱいです。

本日も、そしてこれからも、主役はG-netではありません。きっかけから一歩を踏み出した、地域で挑戦を重ねる若者、そして経営者やオトナの方々こそが主役。

そんなG-netをどうぞ皆様で支えて頂き、そしてぜひ、一緒にチャレンジを！

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人G-net
代表理事 秋元 祥治

G-netのロードマップ

第一フェーズ
主体者としての挑戦

トーライブ
カウントダウン GIFT
ビーンズフェスタ

- ・01年10月 期間限定団体(6ヶ月)として立ち上げ
- ・トークライブイベントを定期開催
- ・「カウントダウンイベント」を開始(01~04)
- ・岐阜の枝豆と、夢のマメを応援する夏祭り「ビーンズフェスタ」を開始(02~07)



ビーンズフェスタ2002

フリーペーパー
笑いと感動のまちづくり

- ・03年5月 NPO法人格取得
- ・フリーペーパー「ORGAN」・「Beans!」(03~07)
- ・初の行政受託「笑いと感動のまちづくり」(03~05)



カウントダウン GIFT

ホンキ系インターン
U・Iターン支援

- ・経産省/チャレンジコミュニティ創成事業採択(04~06)
- ・「ホンキ系インターン」事業開始(04~)
 - ・高知/横浜国立大/中京大等 単位化開始(06~)
 - ・岐阜信用金庫との連携開始(06~)
 - ・岐阜大/四日市大/日本福祉大等 授業開始(07~)
 - ・三重県庁「東紀州事業」開始(08~11)
 - ・名古屋産業大・名古屋大・愛知県大 連携開始(09~)
 - ・管理データベース セールスフォースの導入(10~)
 - ・地域若者チャレンジ大賞 大賞受賞(10)
 - ・愛知県庁と連携した愛知県内展開 開始(10~11)
- ・地域協働型インターン事業開始(10~)
- ・岐阜県「U・Iターン促進事業」協働開始(04~06)



ORGAN

月曜セミナー
学生部創設

- ・若者向け「ゲツベン」「経営者セミナー」開催(06~)
- ・学生部「3charge」発足(09~)



ゲツベン

創業・独立支援
かけたす・東海若手起業塾

- ・経産省/創業支援フォーラム・創業塾開催(06~)
 - ・各務原商工会議所(08~)
 - ・岐阜商工会議所(09~)との連携 等
 - ・社会起業フォーラムの開催(08)
 - ・一般社団法人SRプラットフォーム参画(11)
- ・インキュベーションオフィスかけたす(07~09)
- ・ブラザー工業協賛「東海若手企業塾」(08~)
 - ・岡崎市ソーシャルビジネス支援事業(11~)



チャレンジするヒトを応援したい

つながりコーディネート
コミュニティづくり

- ・経産省「新連携」「地域資源活用プログラム」等採択(06~)
- ・創業希望者と既存事業者のマッチング支援開始(07~)
- ・経営力向上にむけ理事会改組(09)
- ・賛助会員制度の発足(10)
- ・ホンキ系WEBサイトリニューアル(11)



ホンキ系WEBサイト

チームで運営を行う
地域変革のエンジンへ

- ・東日本大震災復興支援活動(11~)
- ・地域若者応援ファンドの新設(12~)
- ・岐阜大学「学生ボラネット」開設(12~)
- ・「中小企業と若者の就職」白書発刊(12~)
- ・「日本仕事百貨」との事業提携締結(12~)

第二フェーズ
伴走者としての挑戦

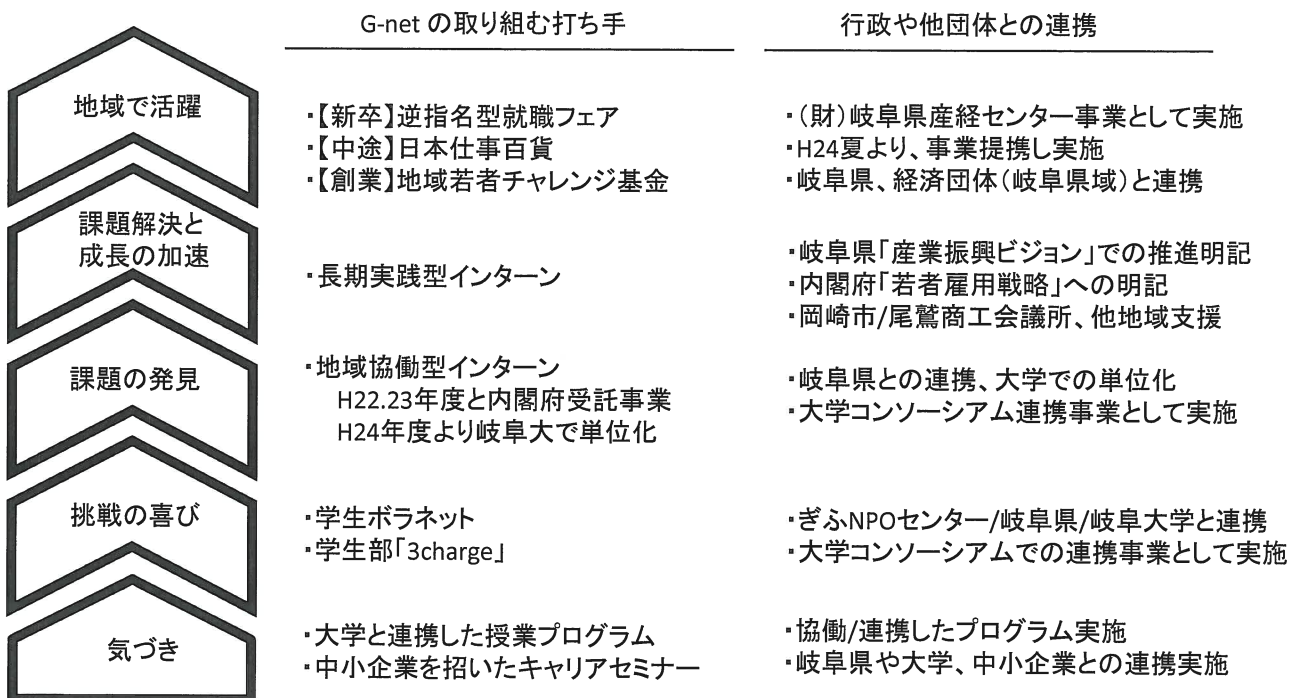
第三フェーズ
コミュニティづくりへの挑戦

G-netの事業戦略

■G-netミッション

地域へ愛着をもち、地域課題の解決に主体的に取り組んでいく人材育成を通じ地域活性化をめざす。

- ・地域内で育成した人材が、県外へ就職を機会に流出。地域を担う人材の育成定着が必須。
- ・学生が在学中に地域に根差した魅力ある中小地場産業や、地域社会との接点が希薄。



■事業実施のポイント

意欲ある人々のチャレンジを支援し 共感を呼ぶ成功事例を創出し、挑戦を誘発していく

■G-netの存在意義は？

- ・地域であり、地域産業を担う主体的/自律的な人材を育む仕掛けや、取り組みが必要だ。
- ・大学を真に地域に開かれ、社会に有用な人材育成の場への転換は、我々が担うべき役割だ。
- ・都会より地域、大企業より小企業、衰退より革新・新たな社会での生き方を示し、ひっくり返す存在。
- ・本当に地域を変えていくことにこだわる。
活動することだけでなく、変革をし、成果を上げることにこだわりきる。

2011年度事業概況

■ 収支

収入 59,139,705円 (前年度: 56,805,602円 前年度比:104.1%)
 支出 55,944,246円 (前年度: 55,332,103円 前年度比:101.1%)
 収支差 3,195,459円 (前年度: 1,473,499円 前年度比:216.8%)
 正味財産 451,840円

自主財源25.6% 行政委託73.7% 補助・助成 0% その他 0.7%

■ インターン事業

売上 47,817,961円 (前年度: 36,891,831円) (売上に占める割合80.85%)
 長期実践: マッチング件数 のべ34社(前年度:30社) 48名(前年度:41名)
 地域協働: マッチング件数 のべ20社(前年度:10社) 43名(前年度:29名)
 フェア・説明会参加学生数 515名(前年度:441名 前年比:+74名)
 ー愛知県/三重県事業、内閣事業等を新規受託

■ 創業支援事業

売上 1,715,463円 (前年度: 5,077,596円) (売上に占める割合2.9%)
 主要事業: 東海若手起業塾

■ その他

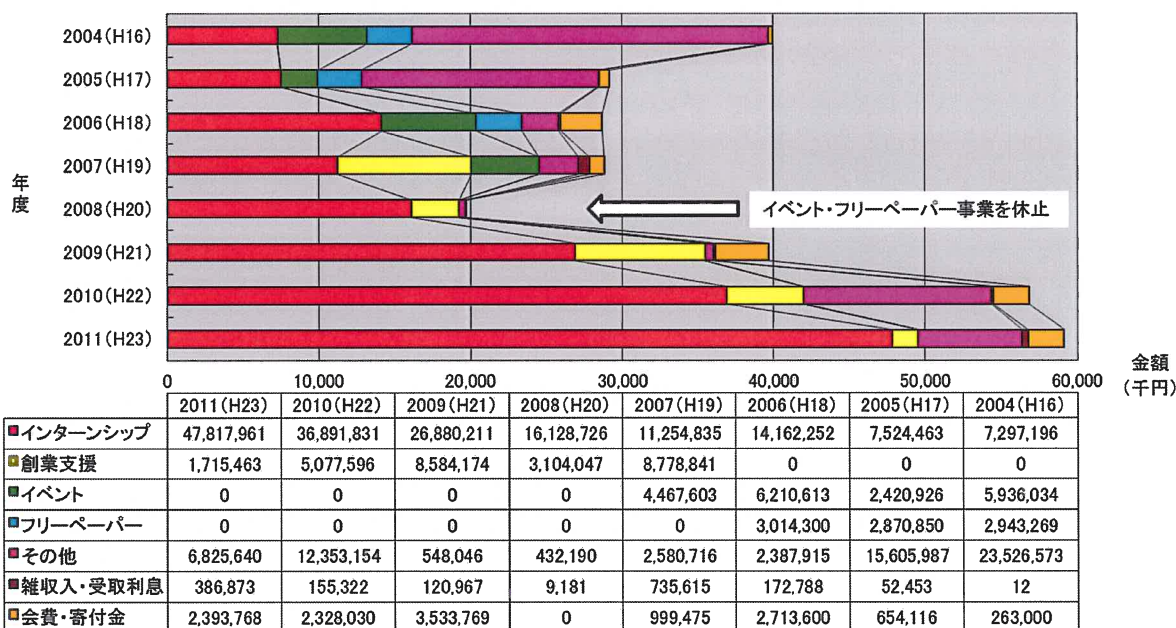
売上 6,825,640円 (前年度: 12,353,124円)
 主要事業: 地域若者応援ファンドの事前調査

■ メディア掲載・受賞

経済産業省「ものづくり日本大賞」優秀賞(青少年育成部門)
 「地域若者チャレンジ大賞」学生部門優秀賞

■ 全体 収入の構成推移

収入内訳の推移



ホンキ系インターンシップ

長期実践型インターン事業は確実に成長。
東紀州地域での取り組みも自立化へメド。

11

34 社 ← 30 社 受入企業 (のべ)
48 名 ← 41 名 インターン 学生数
17 大学 ← 10 大学 連携大学

- 参加学生・企業数の増大
 - －学生OBら主体の実行委員会体制で、フェア参加者数が大幅増加。
 - －愛知県事業を通じ、愛知県内での受入先の拡大
- 首都圏対象の県外マーケティングの本格実施。
 - －NPO法人ETIC.(東京都)と連携した、首都圏学生を対象にした広報告知キャンペーンを実施し県外から岐阜地域へのインターン参加者を募集。
- iPhoneアプリの市場投入
 - －インターン受入企業G-up社やOBが設立したベンチャーLifeBook社と連携しiPhoneアプリ2件を市場投入。幅広い層へ情報発信。
- 三重県受託事業を通じた東紀州地域でのインターンコーディネートを実施。次年度以降は、尾鷲商工会議所が主体となった事業自立と継続実施にメド。



200名近く参加したフェア

地域課題を主体的に解決する人材育成へ。
コミュニティを育み、他地域支援も視野に。

12

49 社 ← 34 社 受入企業 (のべ)
60 名 ← 48 名 インターン 学生数
20 大学 ← 17 大学 連携大学

- 企業開拓・サポート方針
 - －岐阜県内企業、地場産業企業を中心に新規企業開拓を推進
 - －企業向け満足度調査実施、定期的な勉強会の実施、メールニュースの配信
 - －インターン運営委員会(仮称)の設置
- 大学連携
 - －教員向けの定期研修会を実施し、協力教員ネットワークの拡大へ
 - －大学と連携したインターンシップの教育効果の測定・研究
- 学生向けサポート
 - －より意識レベルの高い学生層をターゲットとして設定し、フェアの有料化
 - －学生の成長の評価測定や、企業向け受入満足度・ニーズ調査
- コーディネーター人材の育成と、ノウハウの他地域移転支援
 - －定期的なCD研修の開催、マニュアル化などが必須。
 - －尾鷲商工会議所/岡崎市での他地域インターン事業を支援



尾鷲商工会議所CP 伊東将志氏

地域協働型インターン/ボラネット

夏・春休みの新定番プログラムとして定着。
より多くの学生に、より多くの大学と連携。

11

20 社 ← 10 社 受入企業 (のべ)
43 名 ← 29 名 インターン 学生数
2 大学 + 1 大学 連携大学
コンソーシアム (岐阜県内22大学)

- 内閣府事業として、10・11年と2年間実施し72名へ事業実施
-全国的にも有意義な事例として注目を集める。
- 夏休み・春休み限定で参加可能な1か月プログラムとして大学連携の突破口へ
-岐阜大学、名古屋大学での公式プログラムとしての採用
-大学コンソーシアム岐阜と連携し、公式プログラムとして採択
- 地域協働型をきっかけにした、長期実践型への発展をサポート
-企業・学生共に、これをきっかけに長期実践型への発展を意図
- 岐阜大に「学生ボラネット」の新規立ち上げ
-ぎふNPOセンター・岐阜県・岐阜大学と連携し、はじめの一步を後押し
-するため岐阜大内にボランティア紹介拠点「学生ボラネット」を設立。



ボラネット活動の様子

岐阜大での単位化や、岐阜県の後押しを
得て、規模の拡大と県外参加者増加へ。

12

30 社 ← 20 社 受入企業 (のべ)
60 名 ← 43 名 インターン 学生数
4 大学 + 1 大学 連携大学
コンソーシアム (岐阜県内22大学)

- 岐阜大での単位化をテコに、大学連携を推進し、参加学生の拡大へ。
-岐阜大学・名古屋大学との連携を通じより学生への訴求を拡大。
-県内大学内での説明会や実施報告会を開催。
-ホンキ系インターンへつながるチャレンジをより広範囲で数多く生み出す。
- 地域への愛着を生むプロジェクトの創出
-地域おこしの現場を受入企業先へ。より地域密着型のプロジェクトの
-実施を通して、地域への愛着を生み、育む事業へ。
- 岐阜大「学生ボラネット」を通じ、年間100件以上のボランティアコーディネート
-県内NPOや市民団体、行政らと連携しさまざまなボランティア先を確保し、
-年間100件以上の学生のボランティア参加を促進へ。



県外学生向けHP



受入先:長良川おんぱく事務局

新規事業領域 (就職/採用支援)

インターンOBOGらの進路支援と、中小企業の次の一手に向け、新たな取り組みへ。

11

■逆指名型求人フェア

・意欲ある大学生がブースを構え、地域の中小企業が個別に口説く…新しい就職支援イベント「逆指名型求人フェア」を2度、岐阜県より受託して開催。複数件の中小企業への就職事例を創出し、企業側・学生側双方から満足と可能性を感じられる旨の反響を得ることができた。

■東京仕事百貨との連携にむけ

・転職支援WEBサイト「日本仕事百貨(旧称:東京仕事百貨)」との連携にむけ、中村代表を招いた講演会を開催。中小企業の右腕確保支援策として、次年度以降のサービスインを目指した。

■「中小企業と学生」就職白書の調査/制作

・岐阜地域の「中小企業と若者」に関する就職実態に迫る調査研究プロジェクトを実施。行政や大学等も把握していない実態を把握。次年度以降の事業実施にむけ大きな成果を上げることができた(12年8月頒布予定)



逆指名型求人フェア

昨年度に引き続き、就職・採用支援に向けた試行錯誤を実施。事業家への道筋を描く年へ

12

■逆指名型求人フェアの継続・拡大実施

・逆指名型求人イベントは前年度に引き続き岐阜県庁と連携し2度開催予定。加えて中京圏の学生・企業も対象にするため、名古屋地域でも自主事業(企業課金)での開催をめざす。

■日本仕事百貨との連携

・月間50万PVを有する転職支援サイト「日本仕事百貨(旧称:東京仕事百貨)」と連携を実施し、地域の魅力ある中小企業の右腕人材の確保を支援。主に首都圏に住む20-30代の地場産業への流入の促進へ

■白書第2弾/第3弾の制作と市場投入

・岐阜地域の「中小企業と若者」に関する調査研究プロジェクト。第2弾として採用に関する中小企業の実態や課題にせまる白書を年内をめどに制作へ。制作に際しては金融機関や経営者団体と連携し、また第3弾として「中小企業での人材育成/定着」をテーマにした白書の制作を予定。

■他企業・団体との連携を積極的に模索

・就職/採用支援分野に取り組む他企業・団体との連携・協業へ



日本仕事百貨サイト

新規事業領域（創業支援・ファンドレイズ）

東海若手起業塾に加え、小口助成を計画へ。 寄付・賛助会員拡大に向けた打ち手を準備。

11

■東海若手起業塾は第4期を終了。

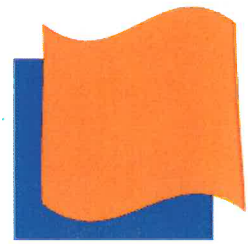
- ・運営委員として参画。21年度は各務原市のビーチサンダル輸入業者の環境配慮型アイテムの開発、事業の見直しなどをサポート。
- ・岡崎市でのソーシャルビジネス/コミュニティービジネス振興事業講師/運営委員として参画。

■新しい公共「地域若者応援ファンド」調査事業の実施

- ・H24年度の市民ファンド立ち上げを目的に、ニーズや先行事例調査を外部パートナーを活用し実施。次年度以降に向けたサービス設計を行った。

■寄付・賛助会員確保に向けての制度設計など

- ・自主財源の確保に向けた賛助会員制度や、寄付付き商品などに関して全国的な先行事例の調査と、次年度以降の実施計画を策定。
- ・活動の報告メディアや、イベント機会の充実へ
（チャレンジフォーラム、祝縁会、オープンオフィスなど）



東海若手起業塾

Tokai Young Entrepreneur Seminar
Sponsored by
Brother Industries Ltd.

小口助成「地域若者応援ファンド」立ち上げ。 寄付プラス印刷などファンドレイズへ挑戦。

12

■東海若手起業塾は第5期も継続参加。

- ・引き続き、運営委員として参画し、起業家を個別支援。
- ・岡崎市でのソーシャルビジネス振興事業運営委員・講師として参画。

■新しい公共「地域若者応援ファンド」の立ち上げ

- ・地域をよくするために、チャレンジをしようとする若者を対象にした小口助成制度を立ち上げへ。秋ごろをめどに第一次助成を開始へ。
- 経営者団体や大手商業施設、中小事業者などとも連携し、基金を運営へ。

■G-netへの賛助会員/寄付の本格募集

- ・OBOGはじめ広く市民全般への賛助会員(個人・法人)の募集、拡大
- ・寄付付きの印刷商品やギフトなど、企業と連携したファンドレイズを企画

■「地域課題の解決×ビジネス」をテーマにした連続セミナーの開催

- ・中間支援機関、NPO、ビジネスマン、金融機関ら幅広い対象への研修会を実施。
- ・岐阜市/関市の2会場で各4日間(16コマ)の本格的なプログラムを予定



寄付付きの印刷「キフプラス印刷」



キフプラス印刷 調印式

岐阜の「中小企業と若者の就職」白書

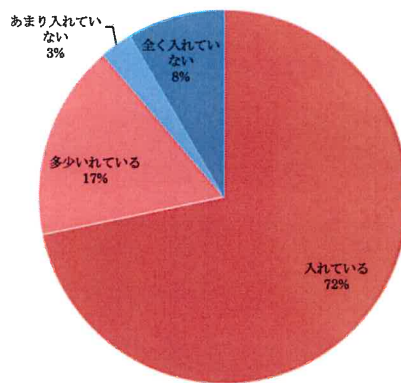
(一部抜粋版)

調査の目的

中小企業と若者との就職の実際について世間で公表されているデータは全国区のものばかり。また、行政機関や大学などに問い合わせても岐阜地域の情報はどこも集約していませんでした。そこで、岐阜地域の若者と中小企業の就職に関する実態を明らかにすべく、白書を作成しました。(8月下旬発行予定)多くの方々にご協力いただき誠にありがとうございました。

調査概要

- ・調査実施方法: 県内大学に在学する大学4年生、行政機関(県・市)、県内大学等へのアンケートおよびインタビュー調査
- ・調査実施期間: 2012年1月～3月
- ・調査対象数: 大学4年生106名

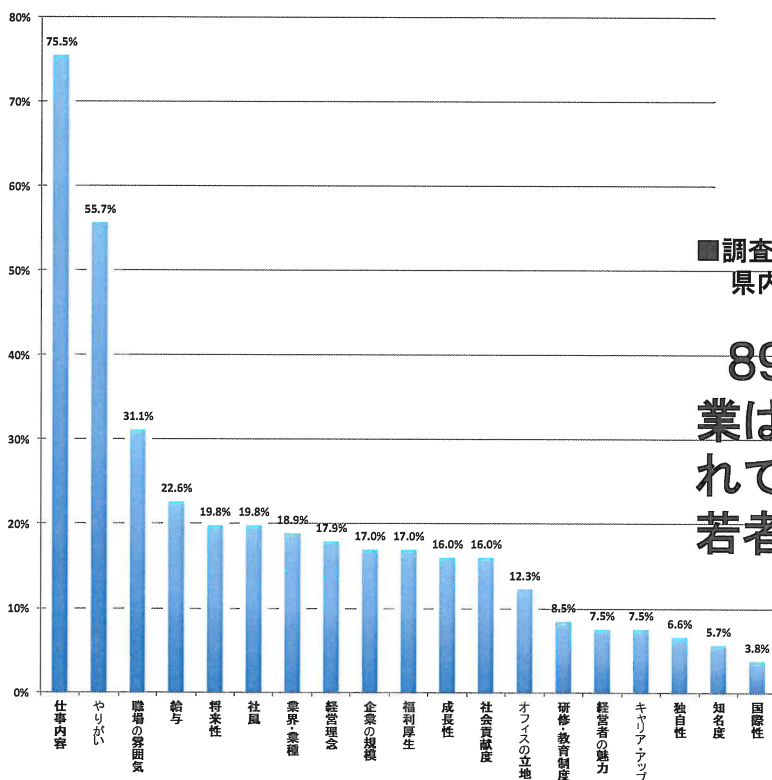


■調査結果1

県内大学生の中小企業への就職意向

89%の県内大学生が中小企業は就職活動の際に視野に入れていると回答。

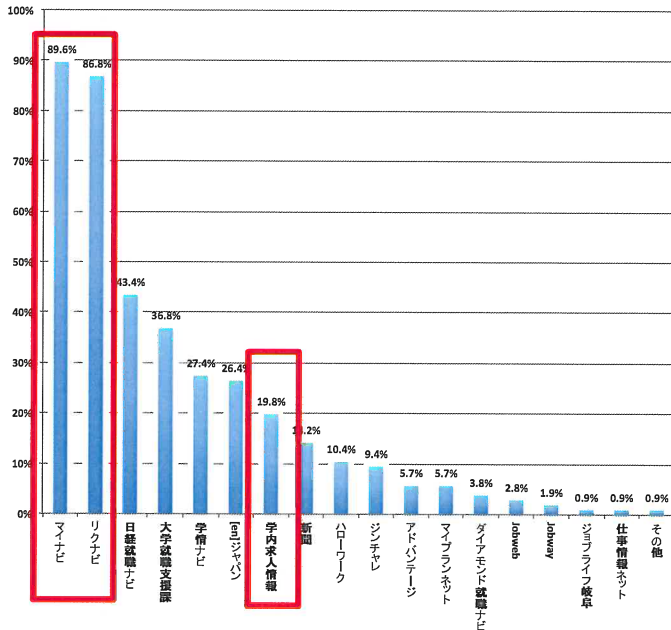
若者は中小企業に無関心でない。



■調査結果2

就職活動の際に重視する項目 (19項目より重視するものを3点のみ選択)

**就職先選びの基準は、給与や福利厚生より、
①仕事内容②やりがい③職場の雰囲気**を重視すると回答。

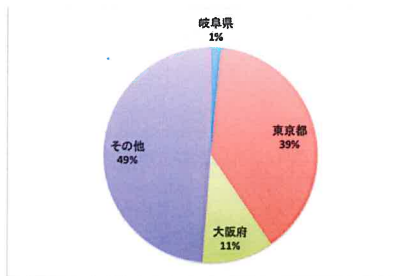


■調査結果3
就職活動の際に使用する求人メディア

ほぼすべての学生は
リクナビ・マイナビといっ
たサイトを使用。大学へ
の求人情報を参照する
学生は20%弱のみ。

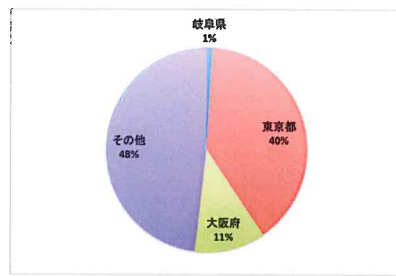
■調査結果4
リクナビ・マイナビに掲載されている岐阜県内企業数

県内10万以上の事業所のうち、のべ180社のみ掲載。
大学生のほとんどは、県内中小企業に出会う接点がない！



地域	企業数
全体	7617
岐阜県	114
東京都	2966
大阪府	819
その他	3718

2012卒
リクナビ

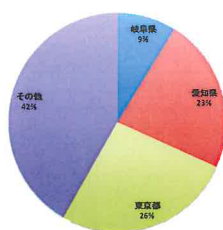


地域	企業数
全体	6903
岐阜県	66
東京都	2734
大阪府	779
その他	3324

2012卒
マイナビ

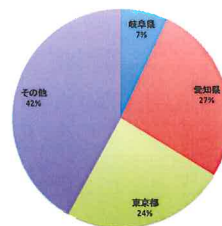
■調査結果5
学内求人情報に掲載されている岐阜県内企業数

学内への求人情報にも県内企業情報はごくわずか。
企業展でも156社中県内企業は23社のみ(岐阜大・学生企業展)



地域	企業数
全体	156
岐阜県	161
愛知県	423
東京都	490
その他	771

2012卒
岐阜大学



地域	企業数
全体	4081
岐阜県	284
愛知県	1093
東京都	995
その他	1719

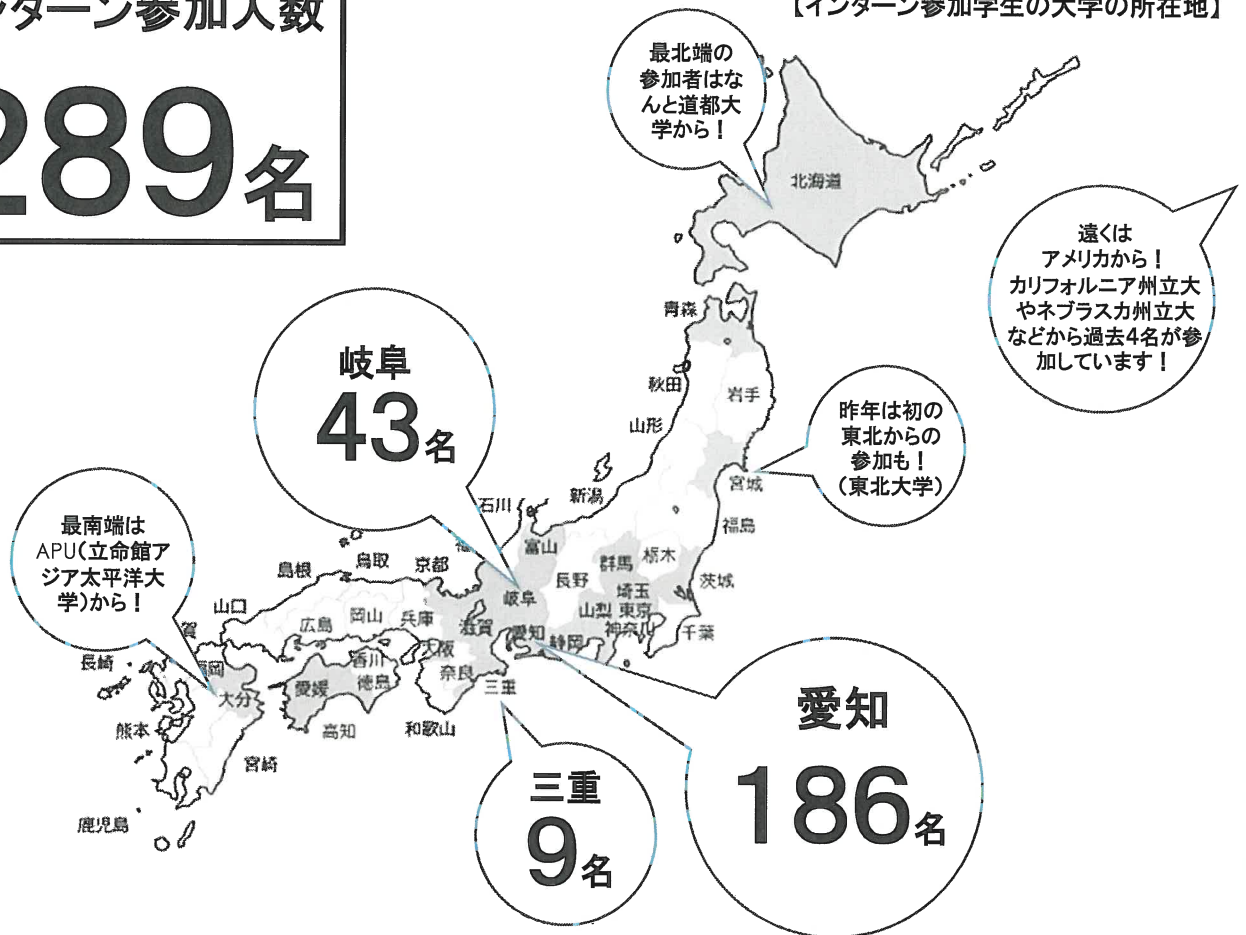
2012卒
岐阜経済大学

インターンシップのこれまで

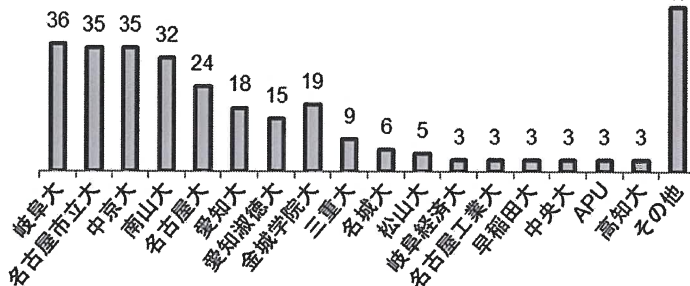
インターン参加人数

289名

【インターン参加学生の大学の所在地】

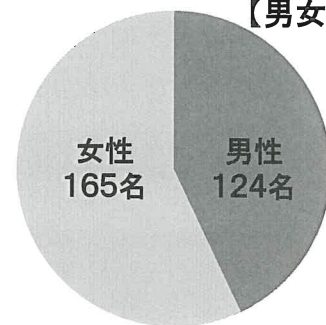


【大学別内訳】



参加学生数ナンバー1は岐阜大学。愛知では名古屋市立大や南山大、中京大、名古屋大、愛知大の学生が多い。全国からは道都大/静岡県立大/都留文科大/松山大/高知大/APUなど。

【男女別内訳】



近年では女性の参加者が増えつつあり、2011年度の参加者に至っては、71%が女性。インターンOGからの声かけにより増えている。

主要な大学でインターンOBOGによる「インターン・コミュニティ」が継続している中で、これまで届いていなかった大学にも声を届けられるようになり、参加学生が増えるようになった。また参加募集イベント自体も、OBOGが中心となって運営し、OBOGの体験談を伝えるプログラムも定着。よりモデルとなる学生に憧れてインターンをする学生が増えてきたように感じる。

平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計活動計算書

自平成23年4月1日 至平成24年3月31日

平成23年度 活動計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人G-net

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費	9,264,483	9,264,483
2. 受取寄付金		
受取寄付金	2,331,332	2,331,332
3. 事業収益		
インターンシップコーディネーター事業収益	39,447,961	
コミュニティ・ビジネス創業支援事業収益	975,351	
その他事業収益	6,729,076	47,152,388
4. その他収益		
受取利息	1,541	
雑収益	389,961	391,502
経常収益計		59,139,705
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	28,326,501	
雑給	3,149,309	
法定福利費	4,467,469	
厚生費	153,237	
人件費計	36,096,516	
(2) その他経費		
広告宣伝費	2,606,142	
減価償却費	315,276	
賃借料	1,333,119	
修繕費	229,318	
事務用品費	985,011	
消耗品費	1,110,052	
水道光熱費	429,999	
旅費交通費	4,428,025	
租税公課	415,983	
交際接待費	62,721	
保険料	1,513,738	
通信費	657,667	
諸会費	83,243	
車輛費	144,493	
新聞図書費	157,986	
地代家賃	2,221,824	
会議費	366,042	
寄付金	590,146	
研修費	65,788	
出演・設営費	357,916	
雑費	637,027	
支払利息	358,339	
その他経費計	19,069,855	
事業費計		55,166,371

2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	132,666		
雑給	23,437		
法定福利費	117,233		
厚生費	9,140		
人件費計	282,476		
(2) その他経費			
広告宣伝費	2,816		
減価償却費	18,808		
賃借料	4,309		
修繕費	13,682		
事務用品費	57,247		
消耗品費	39,249		
水道光熱費	23,387		
旅費交通費	13,532		
租税公課	92,076		
交際接待費	2,431		
保険料	9,232		
通信費	26,934		
諸会費	4,757		
車輛費	4,878		
新聞図書費	9,333		
地代家賃	104,597		
会議費	7,848		
寄付金	562		
研修費	2,308		
雑費	36,035		
支払利息	21,378		
その他経費計	495,399		
管理費計		777,875	
経常費用計			55,944,246
当期経常増減額			3,195,459
Ⅲ 経常外費用			
固定資産除却損		916	
経常外費用計			916
当期正味財産増減額			3,194,543
前期繰越正味財産額			△ 2,742,703
次期繰越正味財産額			451,840

(注) 特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成24年3月31日現在

平成23年度 貸借対照表

平成24年3月31日現在

特定非営利活動法人G-net

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,521,635		
未収金	12,116,842		
棚卸資産	127,800		
前払費用	16,000		
仮払金	278,719		
流動資産合計		20,060,996	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
什器備品	56,043		
リース資産	1,029,000		
有形固定資産計	1,085,043		
(2)投資その他の資産			
出資金	200,000		
預託金	10,310		
投資その他の資産計	210,310		
固定資産合計		1,295,353	
資産合計			21,356,349
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	10,000,000		
未払金	3,247,696		
預り金	350,791		
仮受金	170,034		
流動負債合計		13,768,521	
2. 固定負債			
長期借入金	6,055,538		
リース負債	1,080,450		
固定負債合計		7,135,988	
負債合計			20,904,509
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		△ 2,742,703	
当期正味財産増減額		3,194,543	
正味財産合計			451,840
負債及び正味財産合計			21,356,349



NPO法人G-net

〒500-8844

岐阜市吉野町6-2 ブラザービル2階

Tel.058-263-2162 Fax.058-263-2164

URL: <http://www.gifist.net>

URL: <http://www.honki-i.net> (ホンキ系インターン)

【お願い】

2012年度より、賛助会員制度(※別紙参照)を本格的に運用しております。

G-netのサポーターとして、個人・法人問わず多くの方々に支えていただけますよう宜しくお願いします。